

令和6年度 第2回恵那市社会教育委員会議事録

開催日時：令和6年7月30日（火）

午後1時30分～3時30分

開催場所：恵那市役所会議棟 大会議室

会議次第

1. 開会あいさつ

2. 社会教育委員長あいさつ

3. 議題

（1）令和6年度第1回社会教育委員会会議録の承認について

（2）家庭教育支援計画事業（焦点化事業）の検証について

（3）次期総合計画策定に向けたご意見の聞き取りについて

4. その他

・東濃地区社会教育振興協議会研修会の参加について

・岐阜県社会教育推進大会の参加について

・東海北陸社会教育研究大会富山大会の参加について

・恵那市少年の主張大会の報告について

・ふるさと学習読本「中山道と近世の恵那」の配布について

5. 閉会

次回日程

日時：令和6年9月26日（木） 午後1時30分～

場所：恵那市役所会議棟大会議室

内容：三学塾塾長の役割と業務の実態調査（三学塾塾長との合同会議）

・出席者の数：社会教育委員14人中10人、事務局3人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	三学のまち推進委員会委員	出席
2	副委員長	山田 恵市	文化振興会	出席
3	委員	高草 環	図書館サポーターえな	欠席
4	委員	山内 正一	学識経験者	欠席

5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	欠席
9	委員	後藤 光男	NPOまちづくり団体	出席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	山口 清季	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	欠席
14	委員	藤井 志保	校長会代表（中野方小学校長）	出席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	欠席
2	課長	柄澤 史枝	社会教育課	出席
3	主幹	遠山 直美	社会教育課	出席
4	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃 三学運動推進係	出席
5	主査	今井 ちえこ	〃 三学運動推進係	欠席
6	社会教育指導員	丸山 真理子	〃 三学運動推進係	欠席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃 三学運動推進係	欠席

開会

（事務局）皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻となりましたので、これより令和6年度第2回恵那市社会教育委員会を開催させていただきます。当初、7月24日開催の予定でしたが、都合により日程変更させていただきました。皆様、日程を調整いただきありがとうございます。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。本日、ご欠席の方、途中退席の方もいらっしゃいますが、よろしく願いいたします。それでは、開会のあいさつを柄澤社会教育課長が申し上げます。

1. 開会あいさつ

（課長）暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。今年度、課の名前が変わりましたが、3年目になります。コミュニティセンターを回らせてもらい、塾長と話す機会を持たせてもらっています。その中で、なんとなく聞こえてきていたことと、直接話を聞いてみるとちょっと違うなと感じることもありました。この社会教育委員会は、いろんな立場でお集まりいただいています。ご意見をしっかり聞き取ってこれからの計画更新に活かしていきたいと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

2. 社会教育委員長あいさつ

(事務局) 引き続き、林委員長よりごあいさついただきます。

(委員長) 私の都合で日にちを延ばしていただき、申し訳ありませんでした。第2回の社会教育委員会です。もう暑くて暑くて、昨日は学校のプールが中止、私は送り迎えをしなくてもいいのでほっとしておりますが、今年も中止が多くなるのでしょうか。子どもはプールに入りたいと言っていました。子どもは、夏休みに毎日プールに入れることを楽しみにしていて、夏しかできない、その時に合わせたことを十分活動させてやるのが大切でないかなと思いました。

また、パリではオリンピックが始まり、予想外の展開もあり、期待されていた人が失敗したり、逆転で金メダルを取ったり、いろいろドラマがあるなと感じています。頑張っただけでもいい結果が出ない時があるし、最後の最後まで粘り切って逆転ということもあるし、結果が出るまで終わらない、出たらそこで振り返ればいい。子どもたち、私たちも含めて大事なことがあると思います。すぐ、できないとあきらめてしまう子が多いようですが、これからの子育ては、粘り強く結果が出るまで、終わりとと言われるまで頑張る力が学校だけでなく社会教育でも身につけていくチャンスがあるといいかと思えます。

今年度は、家庭での教育をどのようにしていったらいいかというテーマを持ちましたので、恵那市の子どもたちがより良く、満足いく子ども時代を過ごせるように、皆さんの知恵を拝借しながらアイデアを出していけたらと思います。今日も内容はたくさんありますのでよろしくお願いします。

3. 議題

(事務局) ここからの議事進行を、委員長にお願いいたします。

(委員長) 議題3つ、2番目が中心になります。

(1) 令和6年度第1回社会教育委員会会議録の承認について

(委員長) 会議録をもらっていますので、修正などある方は、後ほど事務局へお伝えください。前回の会議をふりかえることになりますので、必ず読んでいただくようにお願いします。

(2) 家庭教育支援計画事業（焦点化事業）の検証について

(委員長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 家庭教育支援計画にはたくさんの事業がありますが、社会教育委員会では焦点化して9つの事業に絞り、検証を行いたいと思います。第1回社会教育委員会で事業サイクル評価シートをお渡ししておりますが、こちらをもとにご意見をいただくということでお願いします。時間の関係もありますので、柱ごとに絞り、ご意見をいただきたいと思います。各シートの裏面に実績を記しています。実施内容を踏まえ、各課で自己評価をしています。次の視点でご意見・ご提案をいただきます。

①令和5年度の実施内容は十分なもののか

②令和5年度の自己評価は的確に捉えたものであるか

- ③令和6年度の目標設定は、令和5年度の成果と課題を踏まえたものになっているか
 - ④令和6年度の具体的な方策・手立ては目標を達成するための内容になっているか
 - ⑤その他、事業を充実強化するためのご提案や事例
- 説明は以上です。

（委員長）まとめていただいていますので、1つ目、乳幼児家庭教育学級についてご意見をお願いします。

（事務局）評価シートの表面に審議内容ということで、令和4年度、令和5年度の内容を書いています。今回いただいたご意見は、ここに令和6年度として加えて更新します。今回のレジュメの4、5ページは、メモ用にご用意しましたので、ご利用ください。

（委員）5年度の事業にある、「就労している保護者が多いので休日に開催」とありますが、どうでしたか。

（事務局）休日は土曜日午前中に年2回行いました。参加者は15家族で定員いっぱいにはなりませんでした。参加者からは「こういう機会ありがたい」「時間帯も参加しやすい」との声がありました。ご夫婦でいらっしゃる家庭もあり、父親が関わっていることは意味があったと思います。

（委員）平日にやった参加者より多かったということですか。

（事務局）平日の乳幼児学級に父親の参加はほぼなく、母親の参加になるので、夫婦で参加していただけたというのはよかったと思います。

（委員）そうすると、年に2回だけでなく、土曜日を増やしていこうということですか。

（事務局）そうですね、今年度は年4回分の予算を盛っています。昨年度は消防署に講師になってもらい救急救命をやりましたが、テーマを変えながら試みてみようと思います。

（委員）色々やられているけれど、参加者が就労していることから、こども園では未満児からの入園率がどんどん上がっています。まずは生活していかなければいけないので、園の行事に出るのが精いっぱい、参加したいと思っても平日休んでまでは参加できません。効果があるならば、2回を4回、6回に増やしていけたらいいと思います。人数より、参加した人が子育てについて少し話せたり、ほっとできたりする場が大事だと思います。人数で結果を出すというのはどうかなと思います。

救命とか食事とかは表向きのテーマであり、本質は子育てに悩まない人を作っていくことです。参加してみたら、自分だけじゃなかったんだなとつながっていけるとなれば、その後はそういう場を提供してもらわなくても、そこでのつながりから、自分たちで情報交換していけるとと思います。テーマも「〇〇学級」としてしまうと固いかなと思います。目指すのはそういうところですが、参加しやすいような、親子コンサートとか、今の人たちが行ってみようかなと思うことが大事だと思います。昔聞いたことがあります、「恵那校、公立大学何%」と言うと皆興味を持つみたい。けれど、目指している所は「勉強体制を整える家庭環境はどうしたらいいのか」というところを教えてあげる。参加してこないことには伝えられないので、魅力的なテーマで

引き付けられて、仲間とつながっていけるようなことを目指すといいかと思います。

すぐに目に見えてこないと思いますが、じわじわとくるのではないのでしょうか。回数が増えてくるというのはいいことだと思います。

（委員長）他いかがでしょうか。家庭教育で行くと、子育てで両親が同じ考え方でないと困るわけですね。父親と母親が一緒に参加して、同じことを聞いて、なるほどと感じてやっていくことも大事かと思います。こども園については、3者懇談などがないので、そういう機会を作って、こども園の先生と両親が話すというのもいいと思います。こども園で意図的に教育しようと思っても、親に全然理解してもらえなければ、やっただけで終わってしまうので、全員がそういう機会を得られることが大事かなと思います。家庭にとっては不都合なことでしょうか。

（委員）すごくいいことだと思います。運動会や劇参観には、夫婦一緒に来ることが多いです。そうやって出てきた時に、一緒に保育士が話を聞いて親しくなっていくと、人数は限られると思うけれど、本音が聞けるようになってきます。普段は余裕がないので、参加機会を利用していくのはいいと思います。ただし、強制的に「やってください」では無理があると思います。やっただけで終わってしまいますから。

（委員長）もうひとつ、実際に話し合って、記録を残し、その子の情報が次の学年に引き継がれているのでしょうか。先生によって見方が違い、人間として合う合わないがあります。こども園はクラスに2人くらい先生がいますが、お互いに好みがあるなと思って見えています。子どもの情報を先生と親が共有しないとうまくいかないと思います。お迎えの時に、親が先生に色々聞いているのを見ますが、今ある活動を活かすのも大事だと思います。子どもの良さを親に知ってもらい、さらに課題解決の方向性を示してあげる、そんなことを園の先生がしてくだされれば、親は安心できて信頼関係が作れるのではないのでしょうか。そういう能力を高める研修を園の先生方に受けてもらいたいと思います。

他、よろしかったでしょうか。

（委員）地域学校協働本部の推進員でもあるので、いろんな情報を得るために、学期ごとに、こども園、小中学校の教頭先生・校長先生、主任児童委員さんと聞き取り調査を行っています。「こども園にはこういう子がいます、親はこういう状況です」ということを聞きながら、そこから地域の民生委員さんにつなげるか、先生方で解決できるか、引き継いでいかなければいけないかなど、聞き取りを行っています。赴任されて間もない校長先生には、こちらが持っている前年度の情報を出しながら「この子はこんな状況だけどどうでしょうか、この学年はこんな状況でしたがどうでしょうか」など情報交換しています。こちらから、こうしたかどうかということではなく、まず情報を渡す。私の地域は園・小・中各20人程度なので把握しやすい。それが40人、50人、100人となった時には難しいなと思います。

（委員長）次に行きます。放課後児童健全育成事業についてです。

（委員）放課後子ども教室は学校によって違いますよね。こういうのも後押ししてあげると、勉強だけでなく、縦の関係づくりにもなりますので、充実されるといいと思います。

(委員) 学童でなく、放課後子ども教室ですね。

(事務局) はい、別にやっています。子ども教室の方です。

(委員) 学童はお願いした人だけだけど、これは全校対象にやっていますよね。

(委員) 中野方は去年から始まりました。希望者だけです。

(委員長) 学童も放課後子ども教室も、指導者が足りません。

(委員) 中野方は学童の指導者が一緒にやっています。

(委員長) 数が増えるといいんですけど、山岡はやっていますか。

(委員) 私は顔を出したことがなく、よく分かりません。

(委員長) 放課後子ども教室の方がいろんな体験をさせていると思いますが、テーマとか、こんなことをさせたいなというものはありませんか。

(委員) 年間計画はコーディネーターが立てますが、例えば岩邑小校区だと、田植えや稲刈りをして、最終的におにぎりを作るという活動をしています。大井小校区や大井第二小校区は私がコーディネーターですが、自分がやってみたい、子どもと遊びたいプログラムを考えて、指導者を探して実施しています。指導者がいない場合は自分でやったりもしています。

(委員長) 指導者はコーディネーターが探すんですか。

(委員) 自ら探してくるときもあるし、他の教室の情報を聞いて探すこともあります。

(委員長) 各教室間で交流しているんですね。

(委員) 年に何回かコーディネーター会議があるので、そこで情報交換します。連絡先を教えてもらったりしています。

(委員長) そういうことでないと、マンネリ化してしまいますね。

(委員) 学校によっては、中学生ボランティアが参加している所もあります。大井小校区や大井第二小校区は中学生とは時間が合わないので、土日の活動に来てもらっています。この前は中京高校に土曜日のボランティアをお願いしました。

(委員) 土日にもやるんですか。

(委員) 今回は土曜日に行いました。しめ縄づくりは日曜日に行っています。土日しか親が来られない家庭もあるので。スタッフが足りず年に1回保護者当番をやってもらうんですが、平日は無理、土日なら行けるという方が多いので、土日もやった方がいいし、平日は1時間くらいの活動ですが、土日なら2時間3時間できますので。

(委員) やる人の熱意ですね。

(委員) 土日になると、親は来られるけれど、子どもは習い事で来られないという家庭もあり、多すぎずいい感じの人数になっています。

(委員) コーディネーターの研修会はありますか。

(委員) あります。

(委員) 頭が下がります。

(委員) 学校の地区によってやる内容は違います。

(委員) 地域性があっていいですね。

(委員長) 他所のいいところをもらえばいいですね。

（委員）マンネリ化してしまうので、他所の刺激を受けたりできていいですね。

（委員）参加者が1～3年なので、3年サイクルだったり、人気なものは毎年やっても毎回楽しくできます。

（委員長）先生が楽しいと、みんな楽しい。

（委員）質問です。指導員の資格はどんなものですか。

（事務局）放課後子ども教室の指導者は、特に資格はありません。なっっていたいから、研修を受けていただいています。

（委員）誰でもなれるということですね。研修はどのくらいですか。

（委員）県の研修もありますが、何日もというのではなく、子どもに関する対応の仕方などを受けます。特に、どこに行っても使える指導員の資格は、私は持っていません。社会教育課の丸山さんが社会教育指導員として各教室開催時には責任者でいますし、講師には資格を持っている人もいます。安全管理員も各教室に1人います。

（事務局）市では、年3回研修を行っています。外部講師を呼んで、子どもたちへの接し方や興味を引き付けるにはどうしたらいいかなどの実践をしたりしています。コーディネーターさんによっては、県の研修を自主的に受けられたり、地域学校協働活動の研修と一緒に受けていただいたりしています。

（委員）教員OBの方は、指導員にもなれるのかな。

（委員長）そうですね。

（委員）先生でも、子どもと一緒に遊ぶことが好きな先生は大歓迎ですが、そこで指導されてしまうと、子どもは1日授業を受けて疲れているので、またさらにということにもなります。昔は、学校が終わったら外に遊びに行っていたのが、今は遊びに行く場所もないし、近所に友達もいないということでできた場所なので、そこで勉強や何かを教えるとなると、子どもは疲れてしまう。一緒に遊んでくれる程度ならいいと思います。

（委員）私もしめ縄づくりに参加させてもらいました。教えないでと言われても、どうしても教えちゃうんですね。ぐちゃぐちゃになる子もいるんですが、非常にいい指導の仕方を見せてもらいました。

（委員）自分でやりたいんですよ。

（委員）大人から見たら、ボロボロでやり直したら？と思えるんですけど、子どもは自分で作ったことがうれしい。だから、できたものをきれいに見えるように一緒に整えてあげます。

（委員）安全面はしっかりしていると思いました。

（委員長）壮健クラブにこの活動を紹介して、「やってみませんか？」と集ってもらって、70代と一緒に遊んでもらうのはどうですか。

（委員）恵那北小校区は、夏は竹の水鉄砲、冬はしめ縄を壮健クラブさんをお願いしています。

（委員長）敷居が高く、行っているのかわからない年寄りもいるので「地域の子どもや孫と一緒に遊んでください。」と壮健クラブで案内してもらえるといいですね。

（委員）本当に危ないことをした子には、ビシッと叱ってもらえると助かります。親

世代のコーディネーターより、おじいちゃんおばあちゃんの言うことの方が聞くと思います。

（委員長）壮健クラブの会議の場で「こんなことをしてほしい、これはしない。」とお願いできるように、田口委員から小林委員に話せるといいですね。その橋渡しを社会教育課でもらえたらと思います。

（委員）壮健クラブさんが「こんなことできるよ」というものを出してもらえるとコーディネーターは助かります。何をお願いしたらいいか分からないので、昔あそびでも、コマなら任せるとか。そうすると、こちらもプログラムに入れやすいです。

（委員長）誘いがないと行けないし、誘いがあっても「自分たちは教えたことがないから」と引いてしまう。そうじゃないよと安心してもらえるようになるといいですね。一緒になって活動してくれる大人が増えるアイデアかと思います。

（委員長）子どもたちを育てていくため、今いる指導者で四苦八苦しているより、そういう人たちを1人でも2人でも増やしていくことを考えるのが社会教育委員の仕事でもあります。

（委員）人材が少ないのはありますが、今のように探せば壮健クラブだったり、保育科に通っている大学生が地元に戻ってきた時に関わってもらうとか、取りまとめる組織や「この指とまれ」のような核があるといい。機会があってもそこに触れることができない二十歳くらいの子や就職前の子がいると思います。

壮健クラブでいうと組織がしっかりしています。壮健クラブに入っている人は、その地域で非常に重要な仕事をたくさん持っていて、草刈りや道路の整備などいろいろやっています。65～79歳までの方々がいます。人材は発掘できるけれど、街と田舎の違いもありますし、その人材がどのくらい子育てに参画できるかもありますので、調べてみるのもいいと思います。何らかの関わりができるような市の社会教育でありたいと思います。

（委員長）年寄りも情報を知らないこともあります。強制でなく行ける人はどうぞという機会を、魅力ある説明をして案内して、都合のつく時に、不定期でもいいので参加してもらえるといいと思います。指導者不足で困っているし、たくさんいた方が子どもも喜ぶし。情報を得て、理解してもらえるように、小林委員に納得してもらえたらうまくいくと思います。

（委員）こども園の子たちが毎日のように遠足に来ます。中野方の主だった人に電話が来て、30分くらい話してやってほしいとのことで、あちこちに出かけています。いいことだと思ってみえています。「帰って、おうちの人に話せる？」と話しています。

（委員長）幼児教育において、外でいろんな活動をさせる、いろんなところに散歩に行く、部屋の中では読み聞かせやお絵描きをしていて、人数の少ないところはいいなと思います。街の中で園児が多く、交通量が多く自然が少ない地域は、大変だなと思います。田舎はそういう点で恵まれているなと思います。

では、次、柱2の子どもの健全育成対策ということで、図書館やスポーツクラブ、運動習慣についてです。

（委員）明るい話題は読書からという言葉もありますが、読む力は大切だと常に思っ

ています。なるべく子どもに興味を持たせて、読む楽しさを伝えていきたいと思っています。

（委員長）小さい子は自分で読むことが苦手な子もいます。読み聞かせができる人は図書館にみえるので、そういう人をもっと活用してもうといいかと思います。こども園の先生や保護者だけが読み聞かせるのではなく、プロに近いような、前の社会教育委員会副委員長だった磯部先生も童話作家であるし、読み聞かせの名手なので、そういう人をもっとこども園に呼んで、読み聞かせをしてもらおうとやっぱり違うなとなります。日本昔話のナレーターはやっぱり上手いと思います。語りの上手い人が図書館にいます。

（委員）図書館から読み聞かせで各園を回ってくれています。こども園の先生が小学校へ読み聞かせに行ったりもしています。

先ほど話にあった地域性で、周辺部は遠足に行く場所が豊富ですが、長島は行く場所がないけど学林公園があるのでよく行きます。遠足で事故にあう事例もあるので安全第一です。長島だと永田の田んぼまでは行けます。

運動にも力を入れていて、体力測定をやってデータは出しているけれど、それよりも園でどう思って体力づくりに取り組んでいるかが大事です。中野方こども園ややまびここども園のように歩く力、自然と遊ぶ力、小さい子に手を貸してやる力、教えなくても、引っ張り上げてあげたり、転んだ子のところに集まってきて解決してあげるとか、そこで学ぶ力が大きいんだけど、体力増進というところに力を入れた時に、園でどういうことに力を入れているのか、データが出てきたらなぜこんなに体力がついているのか分析して全部の園に配ってもらっているけど、見ているだけのような気がしないでもないです。本当に体力をつけてあげなければいけないと思えば、中野方こども園ややまびここども園の子たちと比べたら、大井長島の子たちは交通事情や不審者のこともあるので、歩くということは本当に学校に行くくらいしかないので、歩いていません。体幹が弱く座ってられない。体力向上に、中部大学から来て何かをやるということではなく、こども園で今つけてあげないと子どもたちの体力は衰退しているよと。体力を付けるのは5歳までじゃないですか。調整力とか教えてもらいながら、5歳まで、3歳までと言われながら、保育士も研修に出ることも大事だと言われたけれど、今、過密になっていて難しいこともありますので、そういうところの学び合いをやってあげないといけません。今は、5歳になって運動会のために逆上がりの練習をしているけれど、5歳でぶら下がりじゃなく、2歳でも1歳でも親子の関わりの中で、ふれあい活動で体力増進を根付かせてやらないと。毎日の生活の中で、でんぐり返しや渡っていくとか、これが逆上がりにつながるのよと、意識させてあげないと。そういう研修会が今求められているんじゃないかなと思います。未満児の段階から親子でそれをやると親子の関わりもできて逆上がりにもつながるのよと、研修できるといいと思います。

（委員）中野方の話ですが、体力がついていると思います。4キロ近くあるダムまで3歳から歩いている。2年生の孫は学校まで3キロあるが、毎日歩いています。田んぼ道を走っても転ばないし、橋みたいなのも渡っていきます。歩くだけでなく、いろ

んな力がついていると思います。

（委員長）自然遊びというのは、幼児たちに必要な体力をつけています。運動神経が良くなり器用にできるようになります。小学校4，5年までにつけていかないと。小さいうちから、バランス感覚やいろんなことをこども園で体験させることが大事じゃないかと思います。

（委員）伸びる時期がありますね。

（委員長）子どもたちは、道具を使って工夫して遊びます。ボールがあれば、投げたり蹴ったりするし、木の棒があれば振ったり投げたりします。環境があれば遊ぶので「こういう風にやりなさい」と教えるだけでなく、運動環境を整えてやるのが運動神経を延ばすことにつながると思います。小さい子はもがくように走っているが、それは走る神経が整っていないからです。また、まっすぐ走る神経が育っていないのでコースを作ってもまっすぐ走れません。ジャングルジムに登らないのは高さの感覚が育っていないからですし、回転でいうと回転の感覚が育っていないからで、必要な感覚は小さいうちに身につけてしまうものです。昔は遊びの中にあったので自然に運動神経が伸びていきました。遊具も必要だけど、遊具だけでなくいろんなものを自由に使えるようにしておくことが大事じゃないかなと思います。やまびここども園はボールなども自由に使えましたよね。小さい子は短期間で次の遊びを考え行ってしまう。これが大事ですね。「長くやれ」というのは大人の感覚であり、小さい子は集中力が短い。先生たちは分かっているのか、分からず子どもに任せているのか、その違いだと思います。

（委員）意図的にやらなければいけないことと、毎日の時間に任せて流れていくのでは、育ちが違うので、そういう勉強会をすることが必要ではないでしょうか。中部大学の先生が来て、子どもたちはいろいろやるけれど、そういう話もしてもらえるといいと思います。

（委員長）先生がねらい、幼児はどのように体力が身につくのか、遊びとどうつながっているのかを理解して遊ばせることが大事じゃないでしょうか。そうすると、おのずと運動環境が変わってくるのではないのでしょうか。

（委員）事務局に聞きたいのですが、図書館関係で旧岩村振興事務所の活用ということで、中央図書館の分館のようなものができますね。それもまたいい具合に市民の意見を募集しながら、私たちも意見を出しながら、せっかくいい建物なのでやってほしいです。

（委員長）分館ができるんですか。

（事務局）はい。旧岩村振興事務所をどう活用するか、ずっと検討してきました。地域と話す中で、部屋もたくさんあり広いところなので、その中のひとつに中央図書館の分館を設置するということで進めています。コミュニティセンターにはそれぞれ図書室がありますが、岩村コミュニティセンターは距離的にも近いのでそこを移転します。蔵書に特徴を持たせりしながら、恵南地域へ読書を普及していこうという拠点を整備していきます。併せて、岩村は佐藤一斎はじめ、多くの先人を輩出したところですので、先人に学ぶ場所、主に佐藤一斎の教えを学ぶ場所として、展示施設を整備し

ていくこととし、広報えな8月号でお知らせしていきます。読書、先人学習の場になっていきます。市民の皆さんにも活用いただけるよう整備していきたいと考えています。

（委員長）せっかく分館を作るので、本館をちょっと小さくしたようなものでは分館としての特色がないので、分館としての特色、目玉を持たせてほしいです。

（事務局）広さや蔵書数では限りがありますので、委員長が仰ったように分館では、どんな本を揃えどんな読み方ができるかを工夫します。いろいろ読み聞かせ会などの取り組みもできると思います。いろんな方からご意見いただき考えていこうとしています。

（委員長）岩村に作るということは、昔からの城下町なので、そこをうまく関わらせた特色のある分館にしてもらえたらと思います。本の貸し借りは本館と連絡して、行き来できると思います。恵南地域の人にアイデアをもらおうといいと思います。

では、柱3に行きます。教育・学習環境の充実について、学校教育振興事業、ICT教育アクションプラン、特色ある学校づくり事業です。

（委員）特色のある学校づくりは恵那市でかなり歴史があって、非常に事業としては、各学校大きく取り組んでいます。予算としてどのように使うかということですが、校長教頭の方針で決まるわけですが、社会教育の立場からみますと、地域に関わる地域学校協働活動、総合的な学習の時間数が少なくなってきましたか。

（事務局）時間数は変わりないと思います。

（委員）学校運営協議会に参加していますが、総合的な学習の時間を確認しあっています。地域の方のお祭りの笛太鼓とか、地域の伝統芸能、中山道ひし屋資料館には茶室があるので、お茶の稽古をされている。どこの小学校でもやってもいいのではないかな？と思います。地域に指導される方もいるので。恵那北中でも昔、お茶を出してくれた記憶があります。

（委員長）ありましたね。

（委員）会議の時に、生徒がお茶を出してくれました。

（委員）そういうのが根付いてきたのではないのでしょうか。各学校の文化として。ぜひこれを20年後、子どもが少なくなった時にどう進化させていくかということだと思います。生徒が少なくなり、コースを減らす傾向もあります。ぜひ、続けていただきたいです。

副読本が活用されていません。図書室に置いてあるだけではないのでしょうか。ふるさと読本の作成はするが、自分のふるさととことが書かれた本なので欠かせないものなのですが、自分の生活の中にどこまでこれが入ってくるか。隣の同級生の子どもが知っているか、近所の人たちは知っているかというところ知りません。こういう会議に出ると分かるのですが。

（委員長）ふるさと学習は、特色ある教育活動ということでどこもやっていますが、柱が決まっているんじゃないですかね。山岡のふるさと学習はどうですか？

（委員）学年で分けていますが、孫は小学3年生ですが「ふるさと探検」ということで、地区の施設や歴史のある所を訪ねて、地域の関係者がいれば話をしてもらって

るようです。とにかく地域に関心を持たせるため、シイタケの菌打ちやオオムラサキを見に行ったりしています。5年生くらいになると「地域を知ろう」ということで、山岡町の歴史を元校長先生にお願いし話してもらっています。「2代3代前の学校はこんな風だったよ」と話すと、みんな興味をもって聞いています。学年ごとにテーマを持って進めています。

（委員長）そうやって、どこの地区もある程度特色あるカリキュラムができていると思います。それをどう工夫した授業展開をするかが課題かなと思います。先生の知恵の出し方、地域の人をどう活用するか、地域の方がアピールしたいことを先生をどう使ってアピールしていくか。「去年これをやったから、今年も同じことをやろう」というのはマンネリ化してしまいます。どう充実発展させるかが課題かなと思います。

（委員）特色ある学校というところで、それぞれ、どんなことをやっているか知りたいです。

（委員長）恵那北小は猪狩山城の歴史を子どもたちが学んでいます。中学校もそれにつながっています。

（委員）一覧表にしたようなものはありますか。

（事務局）総合的な学習については、各学校1枚にまとめたものがあります。1月に地域学校協働活動と社会教育委員会との合同で、答申を受けて地域学校協働活動はどのような活動をしているかについて会議を行います。地域学校協働活動から見た各学校と地域とのつながる活動については、その会議で知ってもらえるかと思っています。

（委員）それを参考にして、取り込んでやってもらえたらいいと思います。

（委員長）自分の家庭に孫がいるなど学校との関わりがあると分かりますが、そうでないと学校でどのようなことをやっているか情報が入って来ません。学校に関わっていない人にも情報が入ることが大事かと思います。興味を持ってもらえるようになると思います。今後の課題かと思います。

（事務局）今、柱3ですが、また次回に時間を設けてご意見いただけたらと思います。この後、15分くらいで総合計画のご意見を幅広くいただき、閉じさせていただきます。

（委員長）柱4は中学生の職場体験、大学生の活用ということですが、大学生だけでなく、中学生も高校生も活用できたら私は思っています。将来、子どもたちと関わりたいという中学生がいますので、学童での指導や一緒に遊ぶなど、身近な中高生が参加すると児童も喜ぶますので、そういう工夫をどんどんしていくといいですね。子どもに興味のある中高生をどう呼び込むかが必要かと私自身思っています。

（3）次期総合計画策定に向けたご意見の聞き取りについて

（委員長）①20年後の理想の恵那市はどんなまちですか？ ②理想の恵那市に近づくために、どんなことが必要ですか？ ということです。一人一言ずつお願いします。

（委員）総合計画の市長の言葉を参考にしたら、未来に向かって人・地域・自然が輝

く地域とあります。だから、持続可能な恵那市のためにどうするか。郷土愛を考えると、愛着を持てる元気なまちとなるのではないのでしょうか。子どもが少なくなる、おじいちゃんおばあちゃんがいっぱいいる、しかし子どもはどこかで勉強して戻ってきてほしい。このような願いがないと厳しくなります。

（委員）自分たちの生活面からすると、インフラの集約化が一番かと思います。道路建設や災害復旧にずっと携わってきまして、登記の関係、権利の継承が難しく手を出せない、古い建物が壊せないという問題があって集約ができていきません。ひとつ整備するにも、水道管がそこら中に張りめぐらされていますが、古いところは50年以上たっている。これを新しく引き直したらどれだけかかるか。とてもそんな費用はありません。それから、道路建設では、恵那市だけで市道が何百キロ、何千キロあります。どこまでを整備、管理していくか。それを考えると、今のままではとても続かないので、どうやって縮小して集約していくかということです。

（委員）文化の継承がされているといいなと思います。人口が減少しても、それなりに続けられるといいと思います。この地域は地歌舞伎も盛んですので、そういったものも続けてくれるといいと思います。

（委員）①人口は20年後に半分になり、30年後は2万人を切る。その時の年齢構成を考えると不安です。安心できるものにしていかないといけません。他市との間で、市内でも移住競争、少子化対策競争、そういうのをいくらやってもいかん時代が来ると私は思っています。瑞浪の人が恵那に来たり、恵那の人が名古屋に行ったり、自分の長男は小牧にいますが、恵那市が大きな市と競えるものがないのかなと考えています。子どもから大人、壮健、老人までが安心できる集落的な恵那市、そんな風に思っ書いて提出します。

（委員長）20年後の理想は、子どもがたくさんいて地元で3世代で住むことです。そのためには、若い人の通える仕事場がいります。地元にある程度の職場がないと、便利なので動いてしまう。結婚して名古屋の方に住んでいて、後継ぎなので男だけ戻ってくる。奥さんは田舎だからと名古屋にいる。分からないこともない。都会に住んでいた人が田舎では暮らしにくい。田舎にずっといる人は、それが当たり前なのでいいですが、恵那が便利でないと来ないだろうな、若者は出ていくだろうなと思います。そういう若者が住みやすい、女性が住みやすいというのはどういうことかと市は分かっているのかなと。どういうものを望んでいるのか、恵那市に住もうと思うと、地元の良さは小学校からずっと指導してきていますが、だけど、出て行ってしまいます。なぜか。要は仕事です。うちは、名古屋まで通っていますけど、朝早く夜も遅い。大変だと思います。そんな苦勞を若い人がやるかということで、魅力のある職場が地元があれば、恵那市の人口は減らないのではないかと思います。リニアが開通して料金が安ければ、東京へも通える。そういう値段にしてもらえたらこの辺はいい住宅地になるのではないのでしょうか。人が増えれば、商店も充実し、東京のようなお店もできるかもしれない。市は若者が望むことを調べて、実態を知ることが大事だと思います。若者が住みたいまちとはどういうものか、大学生に「どういうまちなら戻ってきたいのか」実態調査から始めないと、いいアイデアは出てこないと思います。

(事務局) たくさんのご意見ありがとうございました。ご提案や幅広い視野からのご意見をいただけたと思います。まとめさせていただきます。用紙に書いてきていただいた方はご提出をお願いします。

4. その他

- ・東濃地区社会教育振興協議会研修会の参加について
(事務局) 8月20日(火)に開催されます。参加確認を行いました。
- ・岐阜県社会教育推進大会の参加について
(事務局) 文書により参加をご案内しました。
- ・東海北陸社会教育研究大会富山大会の参加について
(事務局) 参加確認を行いました。
- ・恵那市少年の主張大会の報告について
(事務局) 大会報告を行うとともに、「ゆう’SねっとENA」を配布し紹介しました。
- ・ふるさと学習読本「中山道と近世の恵那」の配布について
(事務局) 1冊ずつ配布しました。
- ・図書館天の川イベント
(事務局) 配布し紹介しました。

5. 閉会

(副委員長) 貴重なご意見をありがとうございました。9月26日のために、塾長から話を少し聞きました。各地域で働き方、動き方、時間帯が異なります。勤務の割り振りによって、朝から昼、午後から夜、午前8時30分から午後5時まで日中勤務している人もいます。学校で例えると、事務員から学級担当、教頭など、多岐に渡る仕事内容のため、忙しいという人もいます。次回に向けて自分の地域の塾長から何か情報を得てから参加してもらえたらと思います。今日はありがとうございました。

次回日程

日時：令和6年9月26日(木) 午後1時30分～

場所：恵那市役所会議棟大会議室

内容：三学塾塾長の役割と業務の実態調査(三学塾塾長との合同会議)

会議前に提言書をご一読いただくようお願いします。